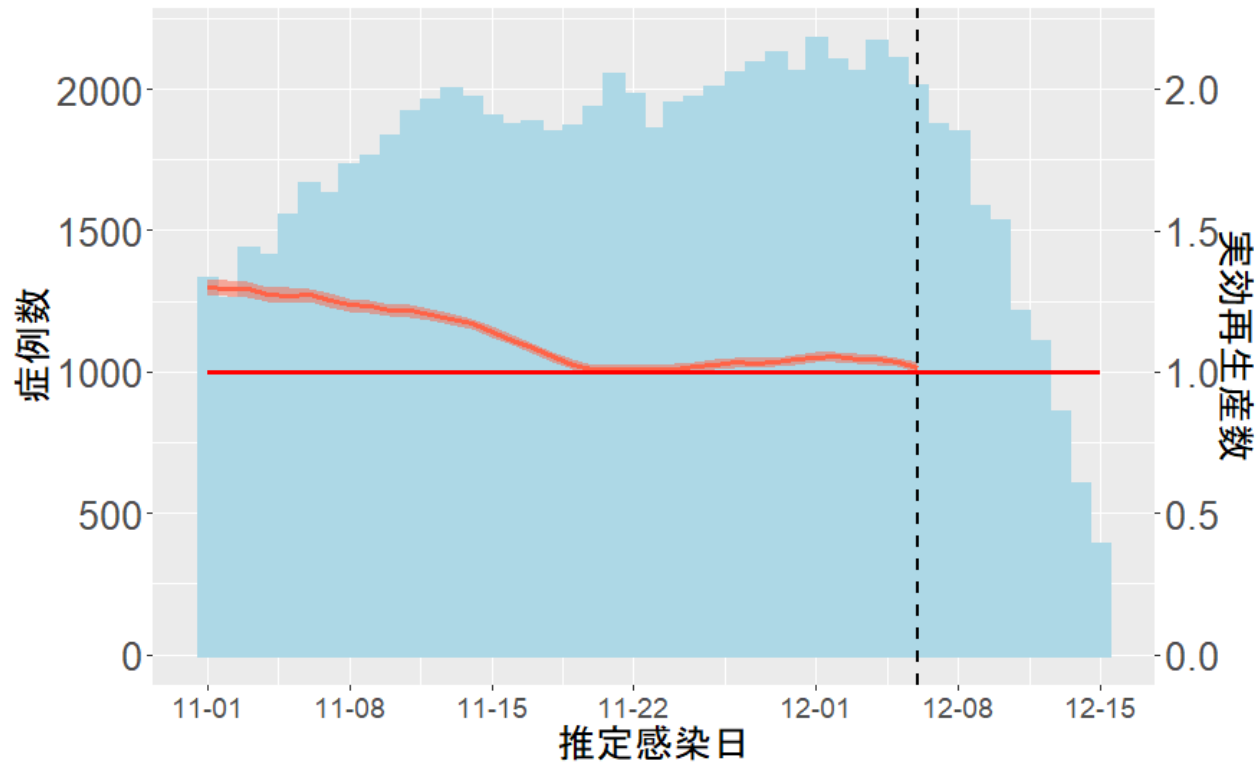


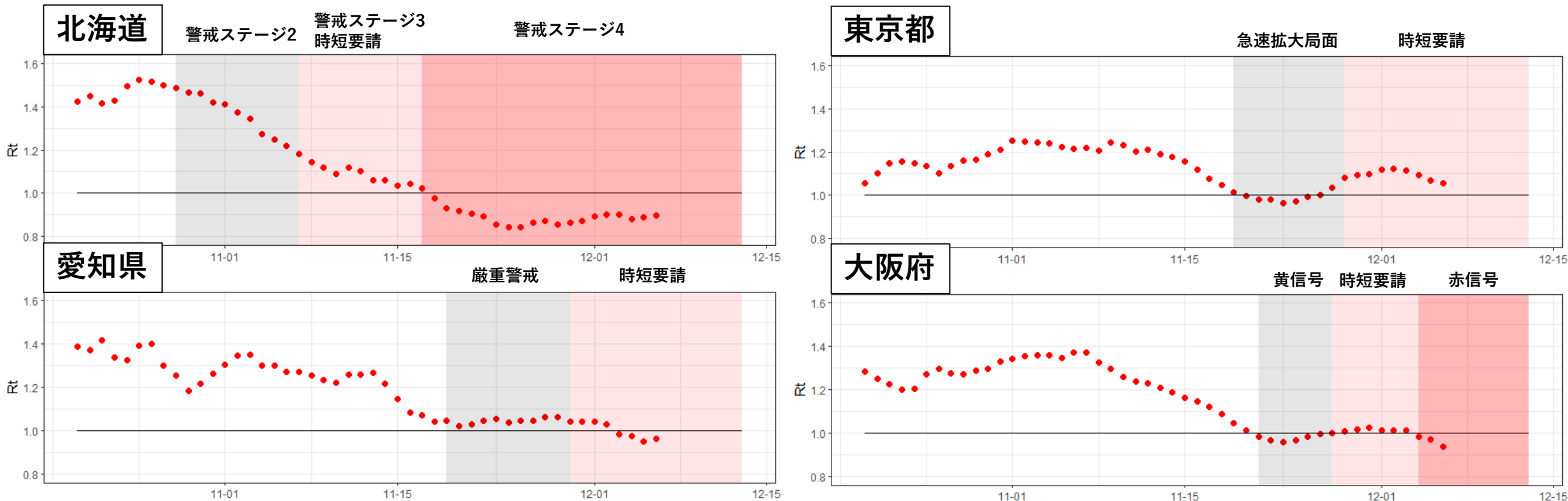
全国の実効再生産数



全国	1.06 (1.04-1.08)	流行の持続
北海道	0.95 (0.89-1.01)	流行の減速傾向
東北	1.36 (1.23-1.49)	流行の持続
首都圏	1.10 (1.07-1.13)	広域での流行の持続
関西圏	0.95 (0.92-0.98)	広域での流行の持続
中京圏	1.03 (0.98-1.08)	流行の持続
九州北部	1.15 (1.06-1.26)	流行の拡大傾向
沖縄	0.85 (0.74-0.97)	流行の持続

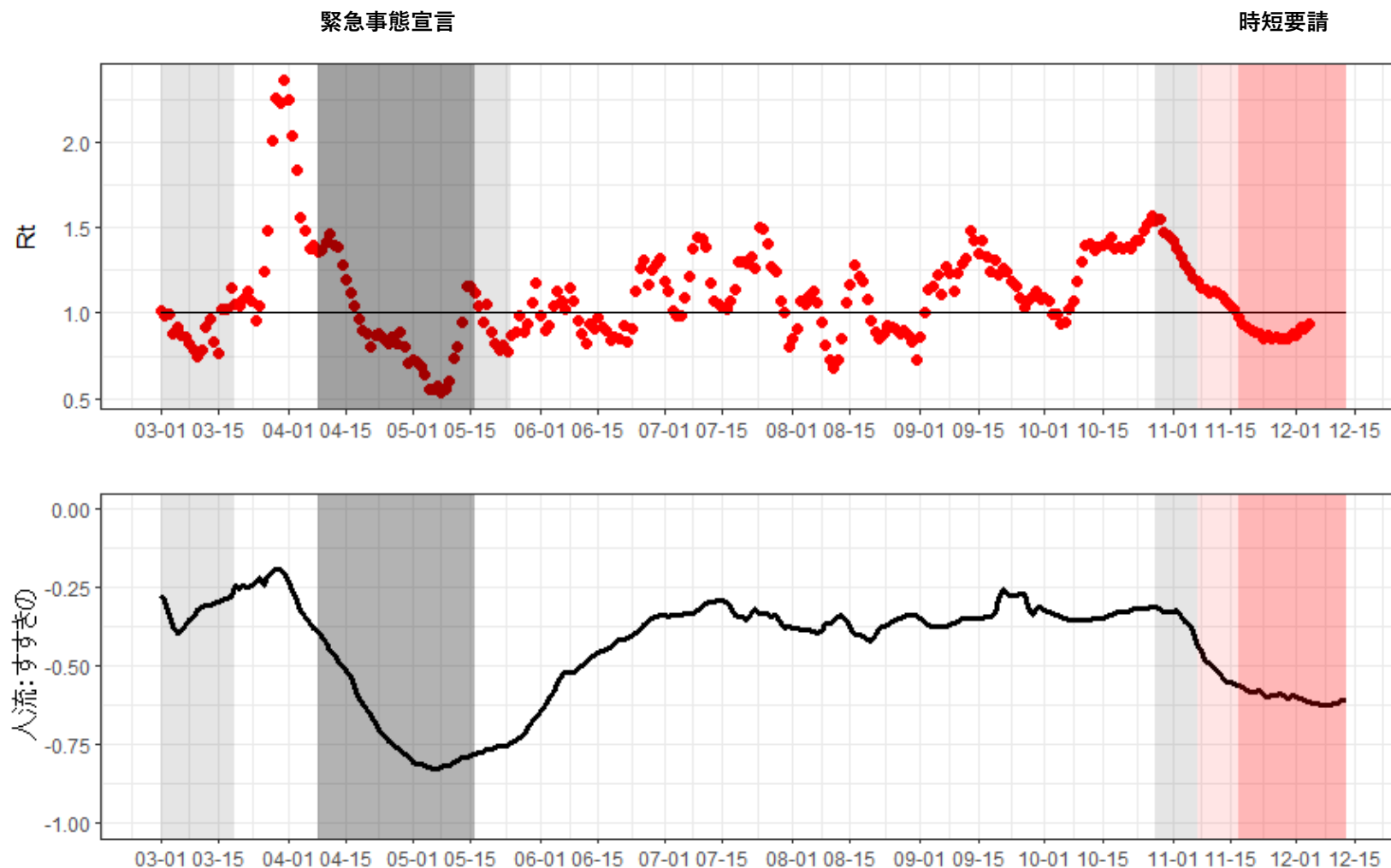
実効再生産数は推定感染日（発症日マイナス5日、発症日不明例については推定発症日マイナス5日）ごとにCori et al. AJE 2013の方法で window time=7で推定した。表は12月6日時点の値。

各地の対策と実効再生産数（推定感染日ごと）の推移



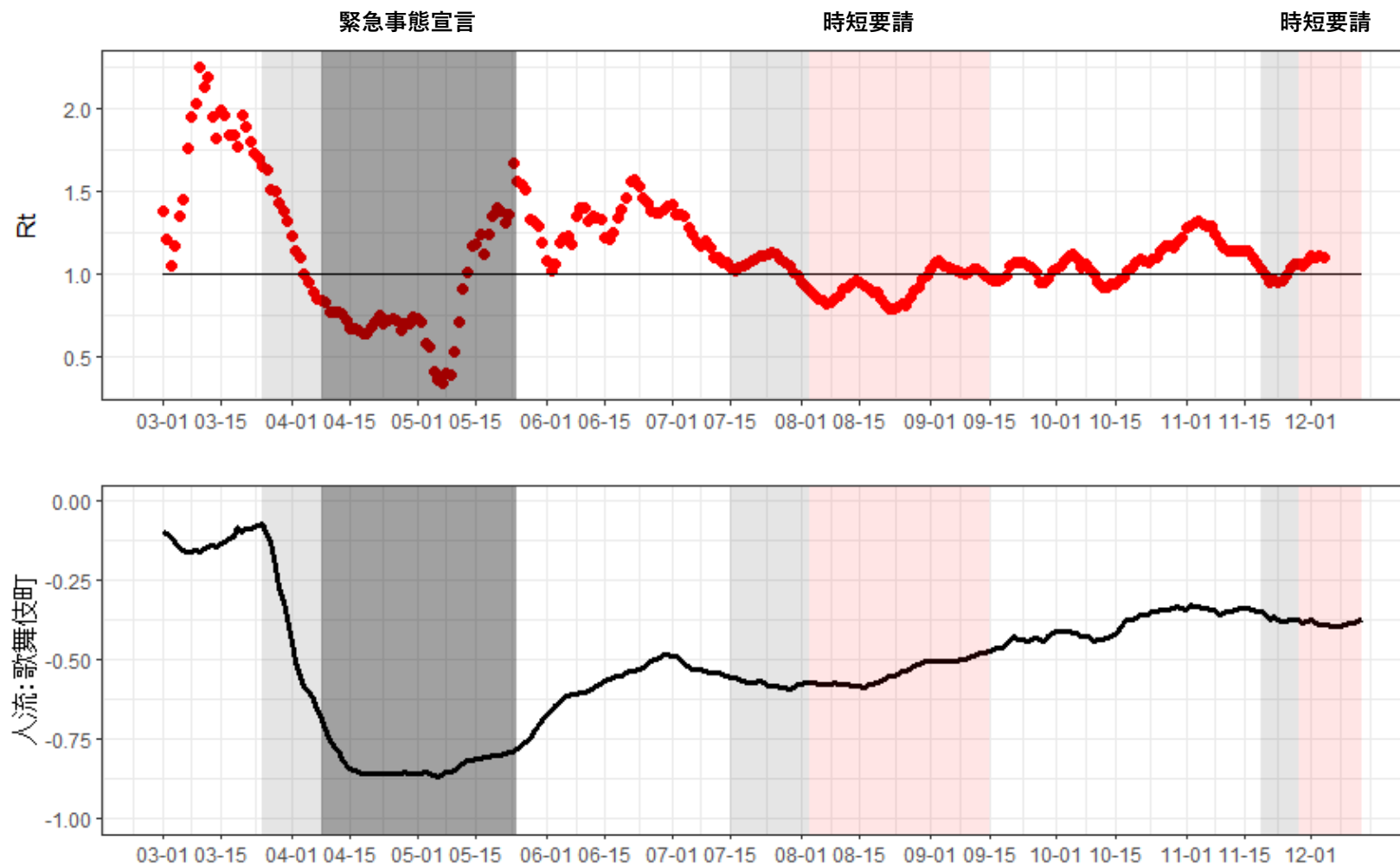
実効再生産数は推定感染日（発症日マイナス5日、発症日不明例については推定発症日マイナス5日）ごとにCori et al. AJE 2013の方法で window time=7で推定した。

実効再生産数（推定感染日毎）：北海道



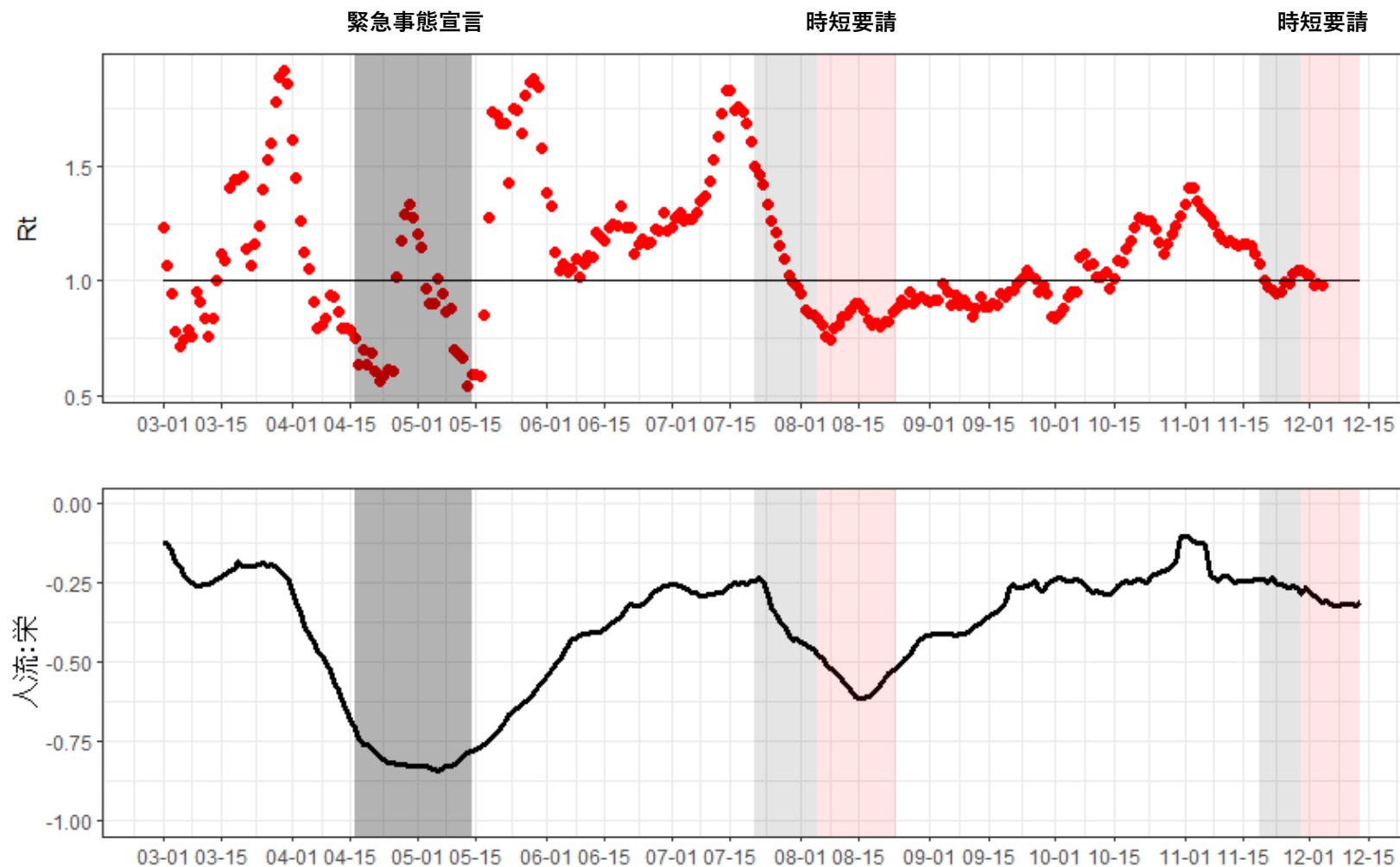
実効再生産数は推定感染日（発症日マイナス5日、発症日不明例については推定発症日マイナス5日）ごとにCori et al. AJE 2013の方法で window time=7で推定した。人流データはNTTドコモ モバイル空間統計のものを用いた。

実効再生産数（推定感染日毎）：東京都



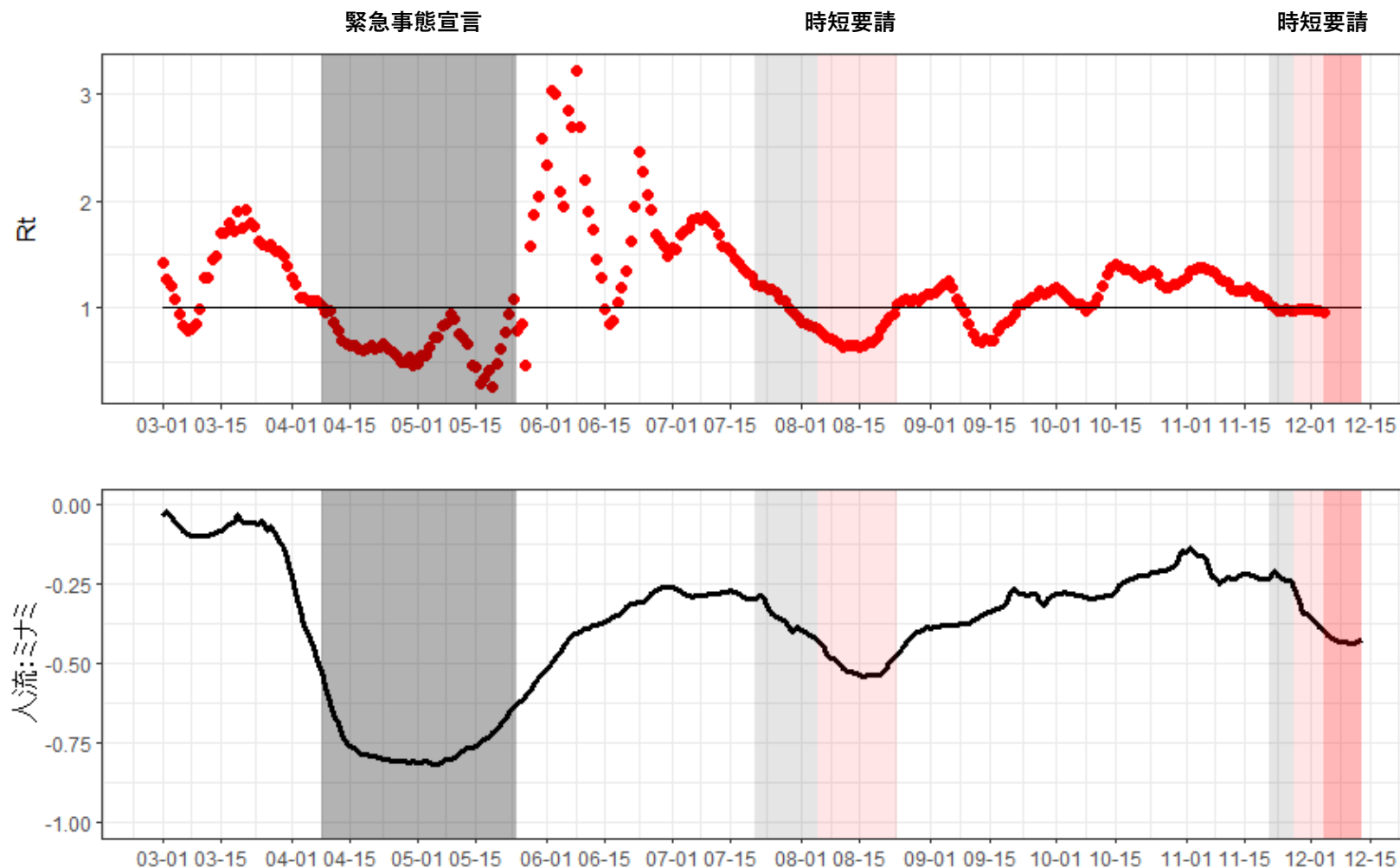
実効再生産数は推定感染日（発症日マイナス5日、発症日不明例については推定発症日マイナス5日）ごとにCori et al. AJE 2013の方法で window time=7で推定した。人流データはNTTドコモ モバイル空間統計のものをを用いた。

実効再生産数（推定感染日毎）：愛知県



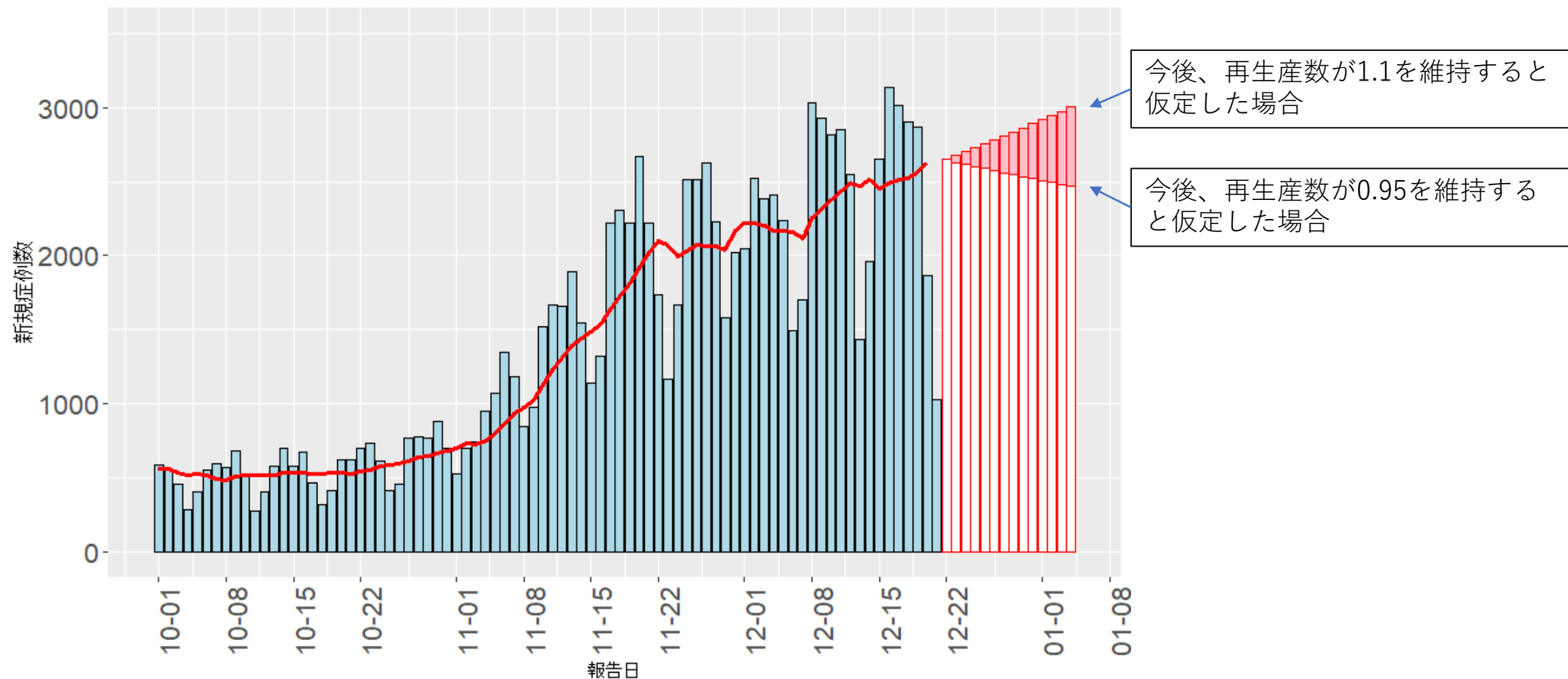
実効再生産数は推定感染日（発症日マイナス5日、発症日不明例については推定発症日マイナス5日）ごとにCori et al. AJE 2013の方法で window time=7で推定した。人流データはNTTドコモ モバイル空間統計のものを用了。

実効再生産数（推定感染日毎）：大阪府



実効再生産数は推定感染日（発症日マイナス5日、発症日不明例については推定発症日マイナス5日）ごとにCori et al. AJE 2013の方法で window time=7で推定した。人流データはNTTドコモ モバイル空間統計のものをを用いた。

全国の新規症例数に関するシミュレーション



赤線は7日間の移動平均

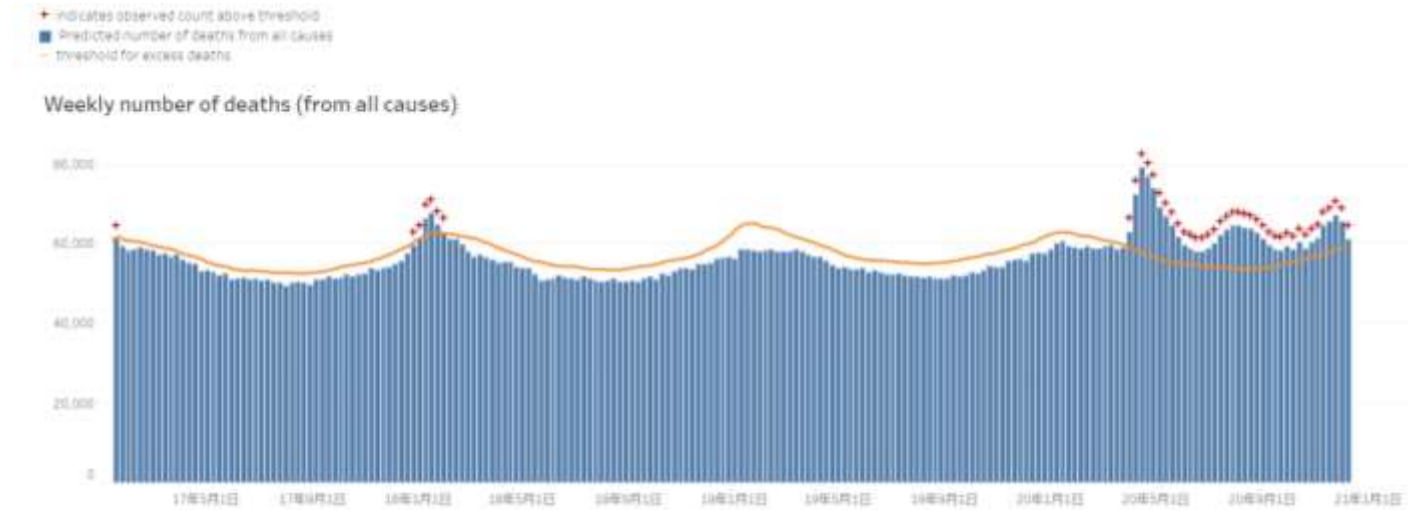
超過死亡：米国と欧州

米国と欧州においては、流行早期から例年には見られない規模で死亡者数の増加（超過死亡）が観察されている。冬期に入り再増加の傾向がみられている。

日本の超過死亡については国立感染症研究所のウェブサイトを参照のこと。

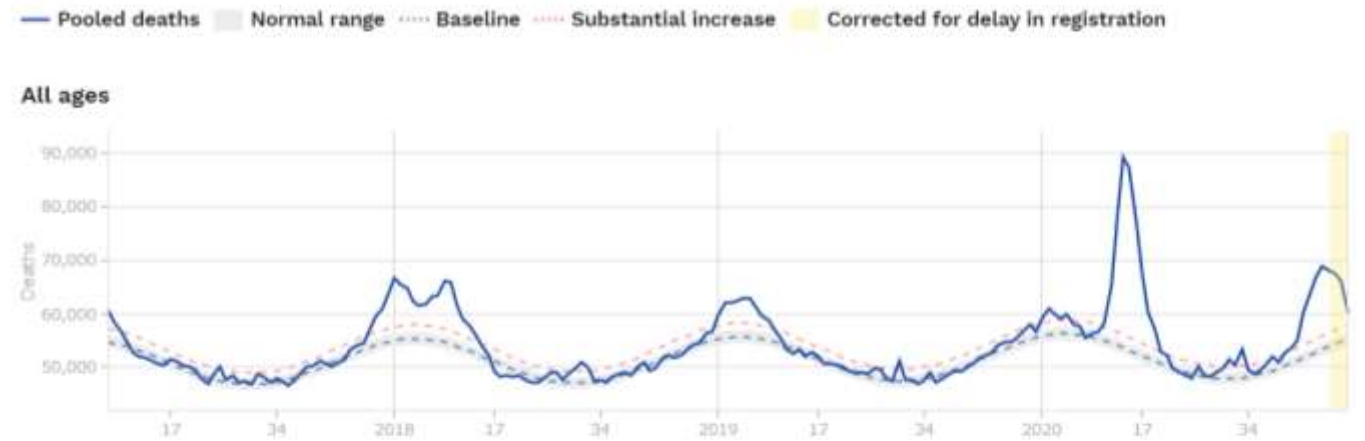
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/from-idsc/493-guidelines/9986-excess-mortality-20nov.html>

米国



https://www.cdc.gov/nchs/nvss/vsrr/covid19/excess_deaths.htm

欧州



<https://www.euromomo.eu/graphs-and-maps>

直近（50週：12/7~12/13）のインフルエンザ動向

サーベイランス指標（情報源）	レベル	トレンド	コメント
定点当たりのインフルエンザ受診患者報告数（NESID、約5000定点）	低 (0.01 [患者報告数57例])	微減	42週20例、43週30例、44週32例、45週24例、46週23例、47週48例、48週46例、49週63例、 50週57例
全国の医療機関を1週間に受診した推計患者数（NESID、推計）	低	横ばい	49週約0.1万人（95%信頼区間：0~0.1万人）
基幹定点からのインフルエンザ入院患者報告数（NESID、約500定点）	低	微増	42週4例、43週1例、44週4例、45週4例、46週9例、47週2例、48週5例、49週3例、 50週5例
病原体定点からのインフルエンザウイルス分離・検出報告数（NESID、約500の病原体定点）	低	横ばい	12/20現在、36週以降、43~44週に 2例 （A(H1)pdm09） （データは毎日自動更新）
インフルエンザ様疾患発生報告数（全国の保育所・幼稚園、小学校、中学校、高等学校に於けるインフルエンザ様症状の患者による学校欠席者数）	低 （休校0、学年閉鎖0、学級閉鎖0）	横ばい	36週以降、37週に学年閉鎖1、43週に学級閉鎖1（北海道）、44週に学級閉鎖1（福岡県）、45~49週は0、 50週は0
国立病院機構におけるインフルエンザ全国感染動向（全国141の国立病院機構各病院による隔週インフルエンザ迅速抗原検査件数、陽性数）	低 （11/16~11/30:検査数2448、陽性数 2例 ）	横ばい	2例（A型2例） （11月前半はA型2例、B型1例） （検査は、診察医師の判断による）
MLインフルエンザ流行前線情報データベース（主に小児科の有志医師による自主的なインフルエンザ患者報告数 [迅速診断検査]）	低	微増	12/20現在、36週以降、12/1にA型1例、12/15に B型1例 （データは毎日自動更新）